国際情報検索ミニレポート（April 25, 2023） 検索結果の例

1. WHOはCOVID-19のワクチン接種についてどうすべきとしているか（該当するURLと概要）

WHOの一般公衆向けのワクチン接種アドバイスページ（2022年4月13日最終更新）によると、COVID-19による重症、入院、死亡を強力に予防する安全で効果的なワクチンが利用できると書かれている(1)。既に何十億の人々がワクチン接種を受けていて、自分自身を守るためにはワクチン接種を受けることがもっとも重要なことの一つであり、新しい変異株が出現するのを止める助けにもなるとも書かれている。ブースター接種も含めて各国の保健当局が推奨する回数の接種を受けるべきとされている。2022年4月時点でWHOが安全性評価をしたワクチンは以下の通りである。

AstraZeneca/Oxford vaccine

Johnson and Johnson

Moderna

Pfizer/BionTech

Sinopharm

Sinovac

COVAXIN

Covovax

Nuvaxovid

CanSino

しかし2023年3月20-23日のSAGEの会議で、接種対象者の重症化、入院、死亡リスクの違いや低リスクの人へのワクチン接種の費用対効果などを考慮し、推奨が大きく変わった。高齢者、基礎疾患のある成人、生後6ヶ月から5歳未満の子供、妊婦、最前線の医療従事者からなる高リスクグループは、半年から1年ごとに追加接種を継続するべきだが、基礎疾患のない50-60歳未満の成人、基礎疾患のある6ヶ月から17歳の子供からなる注リスクグループは3回接種まではすべきだが、それ以降の追加接種は不要で、基礎疾患のない6ヶ月から17歳の子供は低リスクなので、3回までの接種は安全で効果的だが、疾病負荷の低さや費用対効果を考慮して、接種は各国の流行状況や事情により判断すべきとされた(2)。

1. サル痘(monkey pox)の現状について説明せよ（該当するURLと概要）

2022年5月上旬から、ヨーロッパや北米など非常在国も含む世界各地で同時に流行が報告されたことがあり、アフリカでは常在が続いているサル痘は、2022年1月1日から2023年4月18日までで、110カ国から報告があり、累積確定症例数は87,039、疑い例は1,051、死者は120に上っている。2022年5月13日以降、症例の高い割合がそれまでサル痘伝播が報告されたことがない国からの報告で占められているのが現状である。2023年4月3-9日の一週間の症例数83例に比べ、次の一週間の症例数は103例と24％増えた。増加の多くはアメリカと西太平洋で報告されている(3)。

1. ProMEDの情報には，WHOやCDCが提供している情報と比べてどういう特徴があるか？

世界中の専門家からの最新情報が集まる反面、学術雑誌のピアレビューや政府機関の認証といった信頼性確認作業を経ていないため、誤情報や不確実な情報が含まれている場合があり、後に訂正されることも多いことを踏まえて情報を読むべきであるという特徴がある。

1. WHO. COVID-19 Vaccines Advice [Internet]. 2022 [cited 2023 Apr 25]. Available from: https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/covid-19-vaccines/advice

2. WHO. SAGE updates COVID-19 vaccination guidance [Internet]. 2023 [cited 2023 Apr 25]. Available from: https://www.who.int/news/item/28-03-2023-sage-updates-covid-19-vaccination-guidance

3. WHO. 2022-23 Mpox (Monkeypox) Outbreak: Global Trends [Internet]. 2023 [cited 2023 Apr 25]. Available from: https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx\_global/